

Weekly Reports 2023-2024



国際ロータリー第2680地区

Rotary
加古川ロータリークラブ



2023-24年度RI会長:ゴートンR. マツキナリ/地区ガバナー;安行 英文
加古川ロータリークラブ会長;釜谷 和明 / 幹事;吉田 太郎
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和5年8月29日(火) 晴 No. 8



▲会長挨拶



▲桑田圭一郎会員卓話

会長の時間

会長 釜谷 和明

皆さんこんにちは。

8月最終例会にご出席頂きありがとうございます。朝夕は少し過ごしやすくなってきたように感じますが、まだまだ暑い日が続いています。お身体には十分留意され、乗り切って頂ければと思います。

本日は最年少の桑田圭一郎会員の卓話です。楽しみにしています。どうぞ宜しくお願い致します。

先日、生野銀山に久しぶりに行ってきました。私の目的は涼を求める事でしたが、テレビでの紹介が数局でされていた事もあり、親子ずれ、愛犬ずれの方々と賑わっていました。単なる観光地と言うだけでなく、地元小学校卒業記念ワインや地元の白いカボチャが洞窟内で貯蔵・熟成されており、地域密着も意識した活動、運営をされているなど感じました。数年前に有名になった「超スーパー地下アイドル、GINZAN BOYZ」を見ながらゆっくりと見学させて頂きました。

その後は、桑田家及び周辺の市の所有の建造物を見学しながら、帰りに旧生野鉱山職員宿舎でもある黒沢映画の名俳優「志村喬(たかし)」記念館により、地元のガイドさんの説明を聞きながら見学させて頂きました。一番驚いたのが、施設の内、2か所が宿泊出来る場所がありました。

テレビもなく、食事を用意されなく、本当に昔の家の一軒家での宿泊ですが、海外の方の宿泊が多いようです。

今、日本人が知らない場所が海外で有名になり観光客が訪れる場所が増えていると聞きます。

私達が活動しておりますこの地域にも、生活している我々が気付かない自然、建造物、商品、人物があろうかと思えます。

先ずは我々がそれに気づくこと、そして発信していく事が、仕事にも地域発展にも繋がるのではないかと思います。

簡単ですが、これで会長挨拶に代えさせて頂きます。

幹事報告

1) 本日はありません。

ニコニコ



- | | | | |
|----|---|---|---|
| 省 | 略 | ☺ | 桑田圭一郎会員、本日の卓話楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 桑田圭一郎会員、本日卓話よろしくお願いたします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 台風が3つならんでやってくるなん!!
どないなってるねん!? |
| 省 | 略 | ☺ | いつも例会欠席しております。 |
| 省 | 略 | ☺ | 桑田圭一郎会員の卓話、楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 桑田圭一郎会員、卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 桑田圭一郎会員、卓話楽しみにしています。 |
| 省略 | | ☺ | 桑田圭一郎会員、卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 桑田圭一郎会員の卓話楽しみです。
がんばって下さい。 |
| 省 | 略 | ☺ | 桑田圭一郎会員、本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 桑田会員お父さん、聞いていないみたいだけど、上杉家のお話
よろしくネ!!と思ったら、出席されてました!!すみません。 |
| 省 | 略 | ☺ | 結婚記念日のお花、素敵なバラ花束いただきました。夫婦で感
動しました。ありがとうございました。 |
| 省 | 略 | ☺ | テーブルの花いただきます。 |

以上13件 ¥27,000-
本年度累計¥375,000-

出席委員会

- | | | | | | | |
|-----|--------|----------------|----------|-----------|-----------|---------|
| ☆ 今 | 週 | 会員数 73 名 | 出席 44 名 | 出席免除 11 名 | 欠席 18 名 | |
| ☆ 欠 | 席者 | 省略 | | | | |
| ☆ 前 | 々 | 週 | 会員数 73 名 | 出席 48 名 | 出席免除 15 名 | 欠席 10 名 |
| ☆ | メイクアップ | 危機管理・青少年奉仕セミナー | 8/26 | 金田 | | |

親睦活動委員会

例会場当番

- | | |
|----------|-------|
| 9月 5日(火) | 森田、安井 |
| 9月12日(火) | 大辻、浅原 |



プログラム委員会

本日8月29日(火)	9月5日(火)	9月12日(火)	9月19日(火)
卓話 「上杉家の生き方」 桑田圭担当	卓話 「私のライフワーク について」 鈴木担当	フォーラム ゲスト卓話 「ロータリーの友を読もう」 ロータリーの友委員会 地区代表委員 入江 智美氏 雑誌委員会担当	尚歯例会 親睦活動委員会 担当

9月のおよろこび

- ◆ 誕生日祝 省略
- ◆ 結婚記念日祝
- ◆ 出席表彰
- ◆ 会社創立記念日

あの人は今どこに

ロータリーとの出会いで羽ばたいた環境志向の元奨学生

文：Geoffrey Johnson

2005年、**平和部隊**の2年任務の半ばにあったクリスティン・ウェグナー・ギルフォイルさんは、友人の結婚式に出席するために故郷の米国イリノイ州に帰省し、そこで「運命の出会い」をしました。

披露宴でのこと。テーブルである判事(ジョリエット・ロータリークラブ会員)と同席したギルフォイルさんは、ドミニカ共和国で自身が携わっていたバイオサンドフィルターの活動について判事に話しました。それがきっかけとなり、その翌週にロータリークラブ例会で卓話をする事となり、さらに平和部隊の任務を終えて帰国した後にもクラブ会員たちから経済的サポートやメンタリングを受けることとなったのです。

ギルフォイルさんは当時を振り返ってこう言います。「本当に思いがけない出会いでした。ロータリーとの出会いのおかげで、人助けのために自分の能力を生かす方法を見つけることができました」



クリスティン・ウェグナー・ギルフォイル

- 2004-07年 ドミニカ共和国で平和部隊に参加
- 2010-11年度ロータリー国際親善奨学生
- 2022年コロラド大学デンバー校より広報の博士号を取得

クリスティン・ウェグナー・ギルフォイルさんにとって、環境は子どもの頃からの関心事でした。持続可能性への情熱を募らせ、米国からドミニカ共和国へと渡り、その後コロンビアで活動した後、現在は米コロラド州で働いています。Matt Nager

友人の結婚式での偶然の出会いから18年。平和部隊で経験を積み、ロータリー国際親善奨学金やロータリーでの奉仕活動を通じて、ギルフォイルさんは環境を守るという自身の使

命をはっきりと自覚しています。元々、環境意識が強い子どもでした。「アウトドア活動が好きで、環境教育キャンプにも参加し、汚染問題について地元新聞に手紙を送ったこともあります」。パデュー大学に進学して土木工学の専攻を選んだものの、9・11 の同時多発テロがきっかけで考えが変わりました。「平和と持続可能性のために働き、世界に変化を生み出したいと思うようになりました」

大学卒業後、平和部隊に参加してドミニカ共和国で 2 年間任務に就き、その後も現地での滞在を 1 年延長してジョリエット・ロータリークラブから 11,000 ドル以上の支援を受け、バイオサンドフィルターのプロジェクトを続けました、土木技師だったクラブ会員二人(今も現役の会員)がドミニカ共和国を訪れ、浄水と持続可能性についての技術的な指導も行ってくださいました。現地で高校生たちに水フィルターの使い方を教え、全国で生徒と成人のための研修を行い、地域社会の人びとと協力する中で、リーダーシップの力も磨いていきました。



ドミニカ共和国のサンティアゴ近郊地域で不十分な衛生設備を視察するギルフォイルさん。
写真提供：Kristin Wegner Guilfoyle



ギルフォイルさん(中央)とアルアコ族の男性たち。コロンビアにて。
写真提供：Kristin Wegner Guilfoyle

米国に戻ったギルフォイルさんは、ナロパ大学(コロラド州)で環境リーダーシップの修士号を目指しました。論文を執筆していたとき、平和部隊の元ボランティアであるというロータリークラブ会員と出会いました。それが縁でいくつかのロータリークラブで卓話を行い、今度はロータリー国際親善奨学生としてコロンビアに留学することとなりました。

その後の約 10 年間、ギルフォイルさんは現地の先住民たちのために活動することとなりました。ソーラーパネルとワクチンの提供、学校の再建、有機コーヒーの協同組合の設立などを、複数のロータリークラブ、第 5450 地区(コロラド州北部)、[ロータリー財団](#)から資金援助を受けて実施しました。気候変動の影響でアンデスの山々の雪が溶け、先住民たちが利用する水が失われつつあることを知ったのも、このときでした。

この経験がインスピレーションとなり、博士論文では米国における気候変動の軽減を扱いました。現在は、クリーンエネルギーを目指して[国立再生可能エネルギー研究所](#)内の[戦略的エネルギー分析共同研究所](#)で仕事をしながら、幼い二人の子育てに奮闘しています。2013 年に入会したボルダー・フラティロンズ・ロータリークラブでの活動は休止していますが、母親となった今、次世代のメンターになりたいという衝動に駆られています。

「子を持つ親となったことで、持続可能性へのコミットメントがさらに強まった」とギルフォイルさん。「環境のためのリーダーシップの手本となり、協力と革新の大切さを示していきたいと思います。環境問題は未来を担う子どもたちが解決していくこと、と考えている人もいますが、私たちがその負担を少しでも軽くしてあげる必要があると思うんです」

本稿は『Rotary』誌 2023 年 8 月号に掲載された記事を翻訳・編集したものです。